

N I E 効果測定調査結果報告

(1999年10月)

日本新聞教育文化財団 N I E 委員会

はじめに

要 目 査 閲 (1)

著 者 査 閲 (2)

日本新聞教育文化財団NIE委員会委員長

山本治朗 (中国新聞社代表取締役会長兼社長)

著 者 査 閲 (3)

著 者 査 閲

今回のNIE実践効果測定調査は、1998年度に新たにNIE実践校となった157校を対象にした調査で、全国調査としては1996年度実践校218校を対象とした調査に続いて2回目となります。

調査は、NIEの実践前と実践終了時にアンケートに回答してもらうという形で実施いたしました。実践前後の変化を見るためですが、実践後の調査に際しましては、実践された先生方にもアンケートをお願いしました。児童・生徒の自己評価と先生による評価を比較し、一定の客観性を確保しようというものです。

2回にわたって調査にご協力いただきました実践校にあらためてお礼を申し上げます。おかげさまで貴重なデータを得ることができたと確信しております。

NIE第一専門部会が今回の調査項目の設計、回収、集計、分析にあたりましたが、作業は同部会の調査チームが行いました。

「良く読む記事」「NIEによる関心の変化」などの調査結果を見ますと、NIEによって子供たちの社会への関心が広がり、地域や環境、福祉に目が向いていく様子が浮き彫りになっています。

このことは、先生方がNIEに期待している「社会への関心を高める」(83.2%)、「多面的な見方・考え方が身に付く」(65.3%)と見事に対

NIEを通して学習に関して好きになったことでは、児童・生徒の2人に1人が「文章を読むこと」「自分で調べて詳しく知ること」、5人に2人は「他の人の意見を聞くこと」を挙げています。

また、実践されている先生方から見た児童・子供の変化では「自ら調べる学習態度を身に付ける」と4人のうち3人が回答されております。

こうした結果を見ますと2002年度(高校は2003年度)からの新学習指導要領で初めて導入される「総合的な学習」の時間の狙いとする主体的な学習能力の向上にNIEが極めて効果的であることを示しております。

新聞界が挙げてNIEに取り組みはじめて10年余になります。教育界のご理解をいただき、実践は広がり、その教科、領域も多様になってきております。

日本新聞協会は昨年3月、教育界をはじめ各界の協力を得て、日本新聞教育文化財団を設立いたしました。その趣旨は、文字通り広く国民の支持を得てNIEを発展させていこうというものです。

今回の調査結果は、教育界、新聞界双方にNIEへの確信と自信を深めさせてくれるものと期待しております。詳しくは、次ページ以降の分析、データをお読みいただき、今後のNIE実践に供していただければ幸いです。

以上

I. 調査概要

(1) 調査対象

1998年度新規NIE実践校157校

(2) 調査方法

郵送法

児童・生徒が各学級単位で個人記述

(3) 回答校・回答者数

児童・生徒 124校(小学校 48校、中学校 46校、高等学校 27校、中高一貫3校)

	男女別	実践前	実践後
小学校	小学校男性	792人	739人
	小学校女性	758人	728人
中学校	中学校男性	757人	809人
	中学校女性	786人	802人
高等学校	高等学校男性	345人	339人
	高等学校女性	626人	645人
全体	男性	1,894人	1,887人
	女性	2,170人	2,175人

教師 115校 346人

(4) 調査時期

1998年9月～1999年3月

(5) 調査項目

児童・生徒編

- 1 新聞を読む頻度(児童・生徒)
- 2 新聞を読む時間(児童・生徒)
- 3 よく読む記事(児童・生徒)
- 4 情報を何で知るか(児童・生徒)
- 5 新聞による対話(児童・生徒)
- 6-1 新聞記事をめぐる話し相手(実践前、児童・生徒)
- 6-2 新聞記事をめぐる話し相手(実践後、児童・生徒)

- 7 学習能力の向上（好きになったこと）（児童・生徒）
- 8 N I Eによる関心の変化（児童・生徒）
- 9 N I Eの授業評価（児童・生徒）
- 10 授業で時事問題やニュースを取り上げることへの評価（児童・生徒）
- 11 家庭での新聞購読状況（児童・生徒）

教師編

- 1-1 新聞提供以前の新聞活用実績（教師）
- 1-2 N I Eの経験年数（教師）
- 2-1 新聞の読み方の変化（読む頻度、教師）
- 2-2 新聞の読み方の変化（注意して読む記事、教師）
- 3-1 新聞活用動向（活用頻度、教師）
- 3-2 新聞活用動向（教科・領域、教師）
- 4 新聞活用後の児童・生徒の変化（教師）
- 5-1 新聞活用の難しさと期待（難しさ、教師）
- 5-2 新聞活用の難しさと期待（期待、教師）

(6) 調査分析

N I E第一専門部会調査チーム

- 座 長：柴崎 信三（日本経済新聞社論説委員兼編集委員）
 吉田 典之（上毛新聞東京支社報道部課長）
 谷川 寛（北日本新聞社編集局管理部長）
 竹内 正昭（西日本新聞東京支社次長兼編集長）
 平井 貞行（大分合同新聞東京支社編集部長）

（順不同）

以上

II. 調査結果

本調査は、《調査の概要》でも記したように1998年度の新規NIE実践校を対象にし、実践の始まる前と98年度のNIE実践終了時にそれぞれ質問表へ回答してもらったものである。実践前の質問に答えてくれた児童・生徒に実践後の質問にも答えてもらい、その比較を見るとというのが趣旨である。

《児童・生徒編》

1. 新聞を読む頻度の変化

「毎日読む」は、実践前では36.1%だったのが、実践後には41.1%と5.0ポイント伸

び、学校種別にみても小学校34.9%→37.3%、中学校38.5%→44.1%、高校34.2%→41.4%とそれぞれ伸びている。

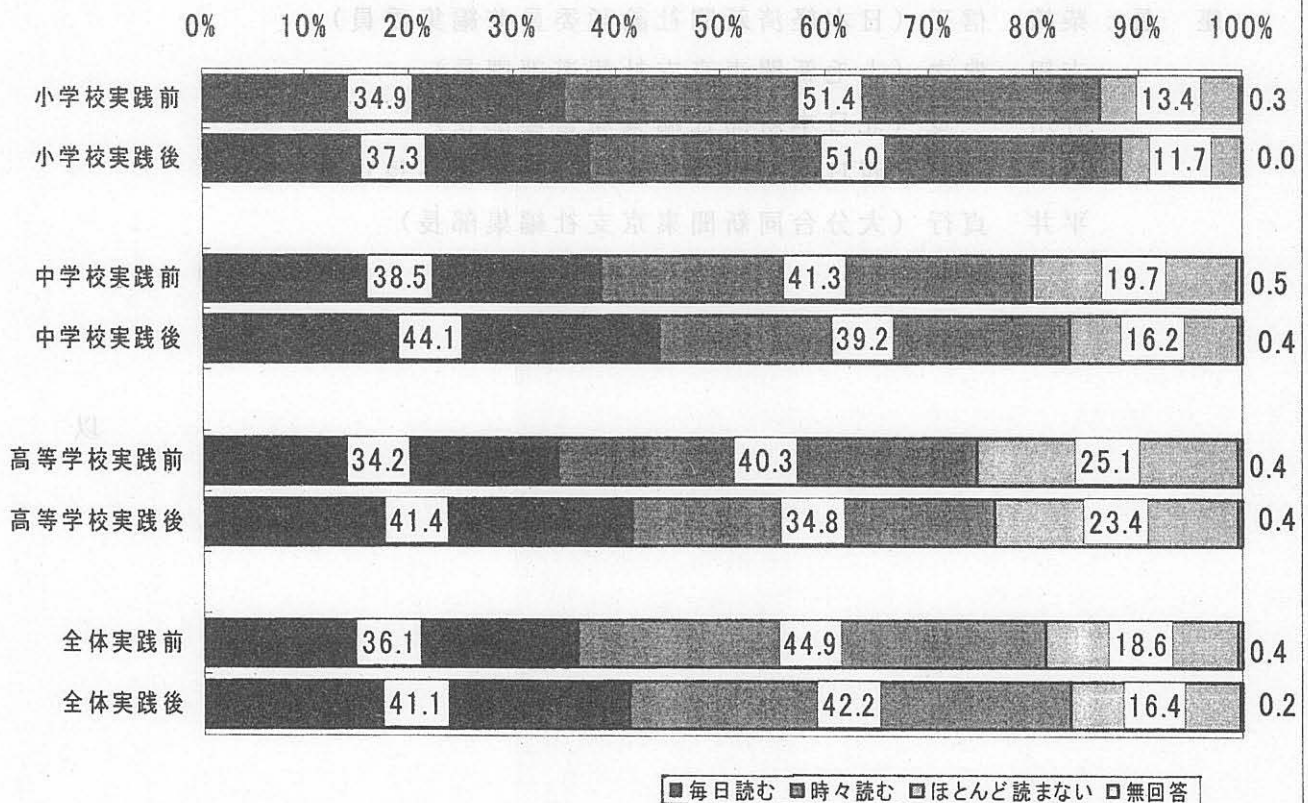
逆に、「ほとんど読まない」は実践前の18.6%から16.4%に2.2ポイント減少している。

学校種別にみても小学校13.4%→11.7%、中学校19.7%→16.2%、高校25.1%→23.4%とそれぞれ減少している。

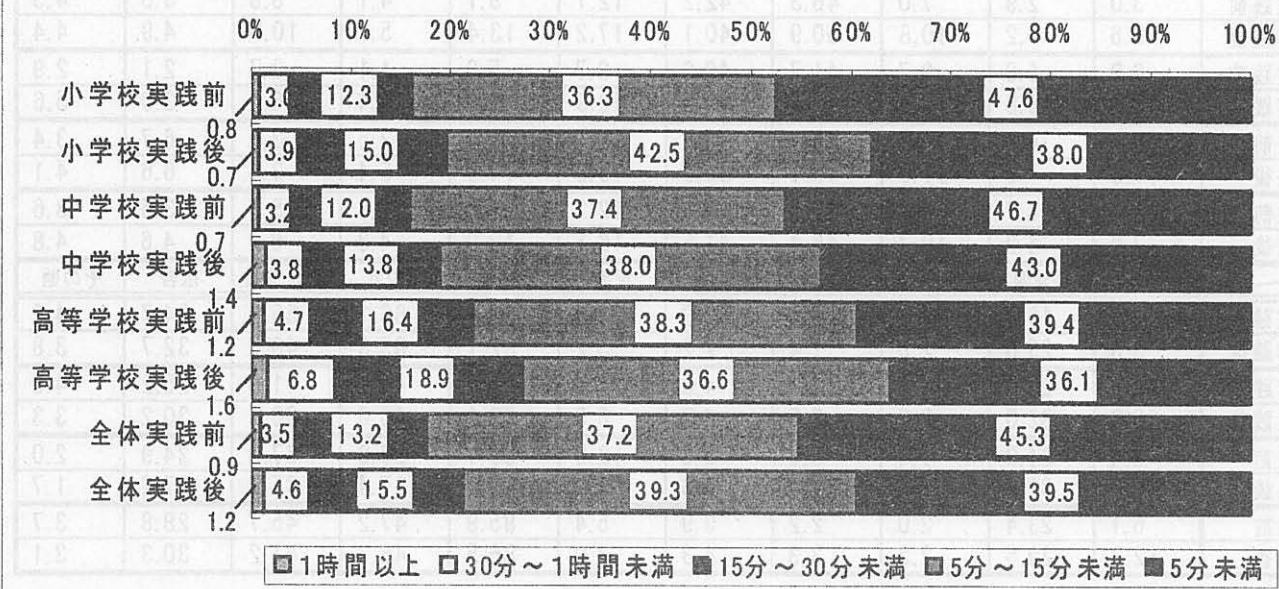
2. 新聞を読む時間の変化

1日の閲読時間は、どう変化しただろうか。図2のとおり5つの選択肢から選んでもらったが、

1.新聞を読む頻度(児童・生徒)



2. 新聞を読む時間(児童・生徒)



「1時間以上」(実践前0.9%→実践後1.2%)、「30分～1時間未満」(同3.5%→同4.6%)「15～30分未満」(同13.2%→同15.5%)が増え、「5分未満」(同45.3%→同39.5%)が減少しており、全体として閲読時間が増えている。学校種別に見ても、おおよそ同様の傾向となっている。

新聞閲読頻度、時間ともに緩やかながら伸びており、NIE効果が確実に現れている。

3. よく読む記事の変化

記事を22種類に分けて、よく読む記事を5つまで選んでもらった。

実践前で1位に上がったのは「ラジオ・テレビ欄」がダントツで85.9%の児童・生徒が「よく読む」と答えている。これにかなり距離をおいて「マンガ」(47.2%)が続き、3位には僅差で「天気予報」(45.7%)、さらに「事件・事故など社会のニュース」(45.0%)、「スポーツニュース」(40.6%)が上位を占めている。これにまたやや距離をおいて「広告」(28.8%)、「芸能欄」(23.4%)が続いてい

る。

学校種別に見ると中学校が全体の順位とやや異なり、2位に「事件・事故など社会のニュース」(41.7%)が入り、僅差で「天気予報」(41.0%)が続き、その後に「マンガ」「スポーツニュース」と続いている。

高校となると、1位の「ラジオ・テレビ欄」(89.1%)は変わらないものの、2位は「事件・事故など社会のニュース」(48.1%)、続いて「スポーツニュース」(38.0%)、「天気予報」(37.0%)、「マンガ」(27.2%)となり、「芸能欄」と「広告」が24.9%の同率で、その後を追っている。

男女別で特徴が出ているのは、男子が「スポーツニュース」をよく読むのに対して、女子は「芸能欄」をよく読んでいた点だ。

実践後はどうか。「ラジオ・テレビ欄」はやはりダントツの1位で86.5%の生徒・児童がよく読んでいたと答えた。2位には「事件・事故など社会のニュース」(46.4%、実践前は4位)が入り、3位には実践前で2位の「マンガ」(46.3%)が後退した。続いて「スポーツニュー

3. よく読む記事(児童・生徒)

単位(%)

	政治	経済	外国	社会	スポーツ	地域	教育・学校	健康	科学	文化家庭欄	読書欄
小学校実践前	3.0	2.9	7.0	46.3	42.2	12.1	9.1	4.1	8.8	3.0	4.5
小学校実践後	5.6	4.2	10.8	50.9	40.1	17.2	13.4	5.7	10.0	4.9	4.4
中学校実践前	6.9	5.6	9.7	41.7	40.6	8.7	5.2	1.1	3.7	2.1	2.9
中学校実践後	7.8	6.8	10.4	41.4	43.8	12.9	9.3	2.4	6.0	3.0	5.6
高校実践前	8.1	6.1	10.0	48.1	38.0	17.7	9.2	3.5	3.3	6.7	3.4
高校実践後	11.6	7.9	11.0	48.1	39.8	19.6	14.2	5.4	3.5	6.6	4.1
全体実践前	5.7	4.7	8.7	45.0	40.6	12.2	7.6	2.8	5.5	3.5	3.6
全体実践後	7.9	6.2	10.7	46.4	41.5	16.1	12.0	4.3	6.8	4.6	4.8
	受験・入試	芸能欄	囲碁・将棋	社説・評論	コラム	投書	ラ・テ欄	マンガ	天気予報	広告	その他
小学校実践前	1.7	19.7	2.6	0.5	2.0	1.0	80.2	66.1	55.9	34.7	4.2
小学校実践後	3.3	25.6	2.9	1.4	2.2	3.2	82.1	65.8	49.8	32.7	3.8
中学校実践前	8.9	26.3	1.7	1.7	4.9	5.2	89.6	40.7	41.0	25.2	4.3
中学校実践後	20.0	32.0	2.2	2.5	4.7	6.5	89.1	40.0	36.9	30.2	3.3
高校実践前	8.4	24.9	1.4	5.6	5.3	12.8	89.1	27.2	37.0	24.9	2.0
高校実践後	12.9	31.3	1.6	7.5	6.6	13.4	89.1	27.4	35.7	27.2	1.7
全体実践前	6.1	23.4	2.0	2.2	3.9	5.4	85.9	47.2	45.7	28.8	3.7
全体実践後	12.3	29.5	2.3	3.3	4.3	7.0	86.5	46.3	41.2	30.3	3.1

	政治	経済	外国	社会	スポーツ	地域	教育・学校	健康	科学	文化家庭欄	読書欄
小学校男性実践前	3.8	3.2	8.8	45.1	60.9	7.6	4.9	2.1	11.1	1.6	1.6
小学校男性実践後	5.7	5.0	10.6	50.3	60.6	12.4	9.3	4.2	11.8	2.6	2.0
小学校女性実践前	2.2	2.6	5.1	47.5	22.7	14.0	11.3	6.2	6.3	4.4	7.4
小学校女性実践後	5.5	3.4	11.1	51.4	19.4	22.1	17.6	7.3	8.2	7.3	6.9
中学校男性実践前	8.1	7.8	9.5	38.2	63.7	8.9	3.8	0.8	5.3	0.8	1.6
中学校男性実践後	10.1	9.1	10.4	38.3	64.5	12.5	5.6	2.5	9.5	1.6	3.2
中学校女性実践前	5.7	3.6	9.8	44.8	18.4	8.7	6.5	1.4	2.2	3.4	4.2
中学校女性実践後	5.4	4.5	10.3	44.5	22.8	13.3	13.1	2.2	2.5	4.4	8.1
高校男性実践前	12.5	11.3	10.1	40.3	59.1	12.5	5.5	1.4	5.8	2.6	1.4
高校男性実践後	17.7	12.7	10.9	43.7	61.7	18.6	6.5	1.8	6.5	1.8	3.2
高校女性実践前	5.8	3.2	9.9	52.4	26.4	20.6	11.2	4.5	1.9	8.9	4.5
高校女性実践後	8.4	5.4	11.0	50.4	28.4	20.2	18.3	7.3	1.9	9.1	4.5
全体男性実践前	7.1	6.5	9.3	41.6	61.7	9.0	4.6	1.5	7.8	1.5	1.6
全体男性実践後	9.8	8.2	10.5	44.0	62.5	13.6	7.2	3.0	9.9	2.0	2.8
全体実践前女性	4.5	3.1	8.2	47.9	22.2	14.0	9.5	4.0	3.5	5.3	5.4
全体実践後女性	6.3	4.4	10.8	48.6	23.3	18.3	16.1	5.4	4.2	6.8	6.6
	受験・入試	芸能欄	囲碁・将棋	社説・評論	コラム	投書	ラ・テ欄	マンガ	天気予報	広告	その他
小学校男性実践前	1.8	10.2	5.1	0.6	2.0	0.6	77.1	67.6	51.8	29.5	2.4
小学校男性実践後	3.2	14.7	5.3	1.4	1.5	2.2	81.2	69.1	48.6	29.9	3.2
小学校女性実践前	1.6	29.6	0.1	0.4	2.0	1.3	83.4	64.6	60.3	31.9	5.1
小学校女性実践後	3.4	36.7	0.4	1.5	2.9	4.3	83.1	62.5	51.0	35.4	4.4
中学校男性実践前	7.8	16.9	3.2	1.6	4.5	3.8	86.8	40.0	41.6	22.5	5.4
中学校男性実践後	16.9	21.9	4.3	2.5	4.1	3.2	86.2	39.8	38.4	29.2	3.0
中学校女性実践前	10.1	35.4	0.3	1.8	5.3	6.6	92.6	41.3	40.5	27.9	3.3
中学校女性実践後	23.1	42.3	0.1	2.5	5.4	9.9	92.1	40.3	35.4	31.2	3.6
高校男性実践前	7.0	18.3	3.5	4.9	3.5	7.0	84.9	29.6	40.0	25.5	0.6
高校男性実践後	9.1	22.1	4.1	5.6	4.1	8.0	84.4	29.2	36.3	26.5	1.2
高校女性実践前	9.3	28.6	0.3	5.9	6.2	16.0	91.2	25.9	35.3	24.6	2.7
高校女性実践後	14.9	36.1	0.3	8.5	7.9	16.3	91.6	26.5	35.3	27.6	2.0
全体男性実践前	5.1	14.4	4.0	1.8	3.3	3.1	82.4	49.6	45.6	26.0	3.3
全体男性実践後	10.2	19.1	4.7	2.6	3.1	3.7	83.9	49.4	42.0	29.0	2.8
全体実践前女性	6.9	31.4	0.2	2.5	4.4	7.5	89.0	45.0	45.9	28.3	3.8
全体実践後女性	14.1	38.6	0.3	4.0	5.3	9.9	89.0	43.6	40.6	31.5	3.4

ス」(41.5%)、「天気予報」(41.2%)
 になっている。そしてやや開いて、実践前と同じく「広告」(30.3%)、「芸能欄」(29.5%)が後についている。

“見る”から“読む”へ新聞の接触が深まっていることがうかがえる。

学校種別に見てみると小学校では実践前の順位上位5つまでのなかで変わったのは「天気予報」(49.8%、実践前3位)と「事件・事故などの社会のニュース」(50.9%、同4位)の入れ替わりである。

中学校では2位に「スポーツニュース」(43.

8%)が上がり、「事件・事故などの社会ニュース」(41.4%)、「マンガ」(40.0%)と続いている。高校では実践前と上位4位までは変わらないが、5位には「芸能欄」(31.3%)が入った。男女別の特徴という点では、実践前と同様、男子の「スポーツニュース」と女子の「芸能欄」がよく読まれている。

また実践前と実践後で「よく読む」比率が比較的に顕著に上がっている欄は、「地域のニュース」(実践前12.2%→実践後16.1%)「教育や学校のニュース」(同7.6%→同12.0%)、「受験・入試の記事」(同6.1%→同12.3%)、「芸能欄」

4. 情報を何で知るか(児童・生徒)

地域・地元の出来事

単位(%)

	新聞	雑誌	書籍	テレビ	ラジオ	パソコン通信	友人	家族	学校・塾の先生	行政広報	無回答
小学校実践前	12.8	1.2	0.6	36.9	0.6	1.2	4.3	31.0	3.6	4.9	2.8
小学校実践後	20.7	1.6	0.3	37.2	0.6	0.7	3.3	27.1	2.7	5.9	0.1
中学校実践前	13.7	1.9	0.6	29.8	1.0	0.5	11.9	25.4	0.8	10.8	3.7
中学校実践後	15.7	2.0	0.6	31.8	1.3	0.8	10.5	25.5	0.6	10.5	0.6
高校実践前	18.4	1.1	0.4	25.0	0.7	0.5	12.2	24.0	0.7	13.1	3.8
高校実践後	19.8	1.2	0.6	25.7	2.1	2.1	13.9	23.3	0.6	9.4	1.5
全体実践前	14.5	1.5	0.5	31.4	0.8	0.8	9.1	27.2	1.8	9.1	3.4
全体実践後	18.5	1.7	0.5	32.1	1.0	0.8	7.9	26.3	1.3	9.6	0.5

自分の住んでいる地域以外の国内の出来事

	新聞	雑誌	書籍	テレビ	ラジオ	パソコン通信	友人	家族	学校・塾の先生	行政広報	無回答
小学校実践前	14.6	1.1	0.6	68.6	1.2	1.5	0.8	6.8	1.4	0.1	3.3
小学校実践後	16.0	1.5	0.1	71.3	0.8	1.2	0.8	7.0	1.0	0.3	0.1
中学校実践前	13.7	1.9	0.4	71.4	1.3	0.6	1.7	3.3	0.9	0.3	4.4
中学校実践後	14.1	1.7	0.3	72.2	1.3	1.7	2.4	3.5	0.6	0.9	0.8
高校実践前	16.1	1.9	0.4	69.9	0.6	0.7	2.7	3.5	0.2	0.3	3.7
高校実践後	15.5	0.8	0.2	75.8	0.6	1.0	2.0	3.0	0.0	0.1	0.9
全体実践前	14.6	1.6	0.5	70.0	1.1	1.0	1.6	4.7	0.9	0.2	3.8
全体実践後	15.1	1.4	0.2	72.9	0.9	1.4	1.7	4.7	0.6	0.5	0.6

外国の出来事

	新聞	雑誌	書籍	テレビ	ラジオ	パソコン通信	友人	家族	学校・塾の先生	行政広報	無回答
小学校実践前	15.4	1.0	0.4	70.6	1.0	1.9	0.7	4.7	1.3	0.2	2.8
小学校実践後	17.3	0.6	0.3	73.5	0.7	1.8	0.4	3.8	0.9	0.2	0.5
中学校実践前	5.0	1.7	0.5	73.4	0.6	1.7	1.2	2.3	0.8	0.1	4.1
中学校実践後	14.1	1.4	0.1	75.9	1.3	2.0	1.3	2.4	0.6	0.2	0.7
高校実践前	14.2	2.0	0.2	72.8	0.4	2.2	1.6	2.5	0.4	0.3	3.4
高校実践後	12.0	1.3	0.4	80.0	0.5	1.6	1.0	1.7	0.2	0.0	1.2
全体実践前	14.4	1.5	0.4	72.2	0.7	1.9	1.1	3.3	0.9	0.2	3.4
全体実践後	14.8	1.1	0.3	76.1	0.9	1.8	0.9	2.7	0.6	0.1	0.7

スポーツニュース

	新聞	雑誌	書籍	テレビ	ラジオ	パソコン通信	友人	家族	学校・塾の先生	行政広報	無回答
小学校実践前	23.7	3.0	0.3	63.8	0.5	0.3	1.2	3.5	0.7	0.1	3.0
小学校実践後	23.6	3.6	0.1	67.9	0.5	0.3	1.2	1.8	0.3	0.1	0.5
中学校実践前	16.5	2.3	0.4	70.9	0.9	0.6	1.9	1.5	0.4	0.1	4.4
中学校実践後	16.1	3.0	0.1	74.8	0.9	0.7	1.9	1.5	0.1	0.2	0.6
高校実践前	17.1	2.0	0.4	72.3	0.2	0.4	2.1	1.6	0.1	0.2	3.6
高校実践後	15.2	1.7	0.0	77.7	0.5	0.4	1.6	1.3	0.1	0.0	1.4
全体実践前	19.4	2.5	0.4	68.5	0.6	0.4	1.6	2.3	0.4	0.1	3.7
全体実践後	18.6	2.9	0.1	73.0	0.7	0.5	1.6	1.6	0.2	0.1	0.8

→同29.5%)、「健康」(同2.8%→同4.3%)などがある。

4. 情報を何で知るか

「地域・地元の出来事」など異なる性格の出来事を詳しく知ろうとした場合に、何を利用しようとするか、それぞれのどのような方法で知るかとの問いには、いずれも「テレビ」が1位となった。

「新聞」は「地域・地元の出来

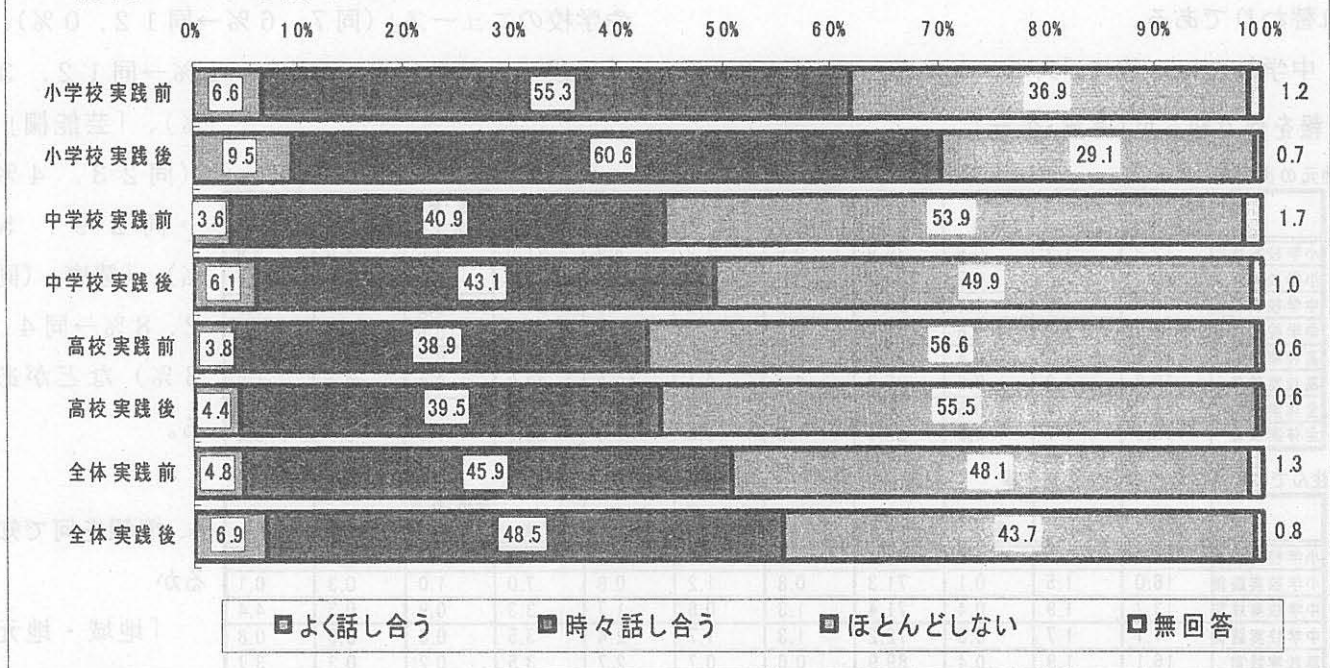
事」を除く3項目では、実践前後とも2位につけている。実践前と後で顕著な変化を見せたのは「地域・地元の出来事」で、順位は「家族」に次いで3位と変わらないものの、比率を14.5%から4.0ポイント高めている。また、「スポーツニュース」を除く3項目では、実践後の数値が高くなっており、NIEの効果がうかがえる。

5. 新聞記事をめぐる対話の頻度の変化

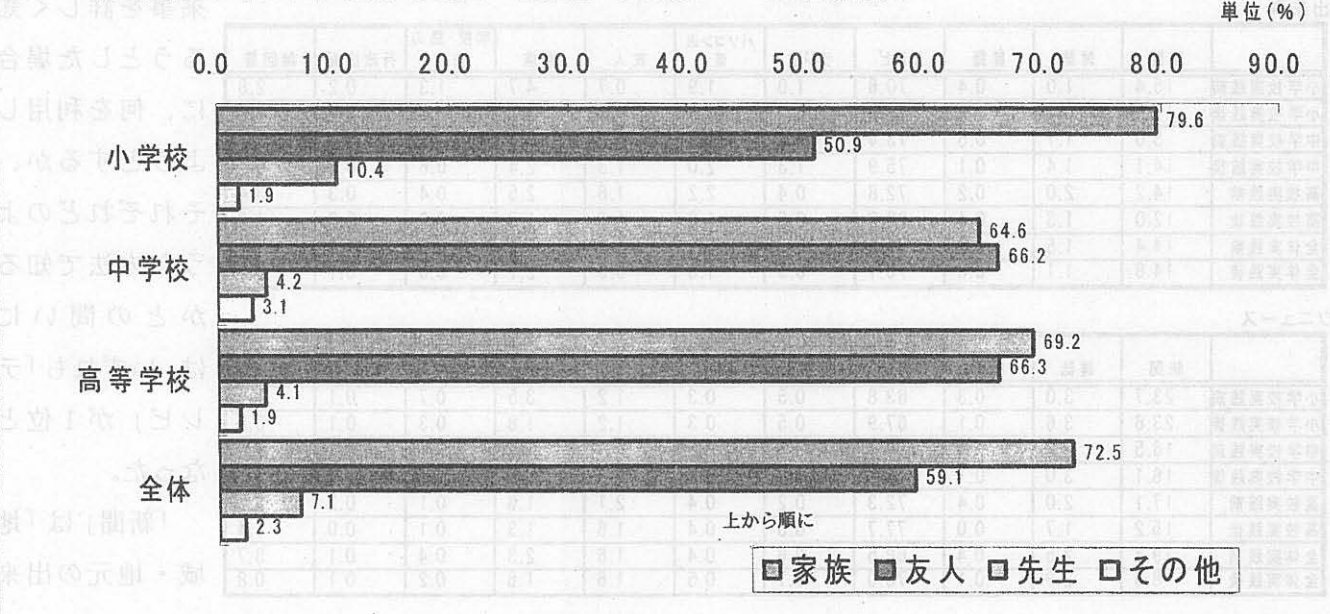
実践前に比較すると「よく話し合う」の割合は増え、全体として2.1ポイントが上がって6.9%となった。小学校で6.6%から2.9ポイント増やして9.5%となったのをはじめ、中学でも2.5ポイント増えている。

また「よく話し合う」「ときどき話し合う」を合算して比べてみると、全体では4.7ポイント

5. 新聞による対話(児童・生徒)



6-1. 新聞記事をめぐる話し相手(児童・生徒) [実践前]



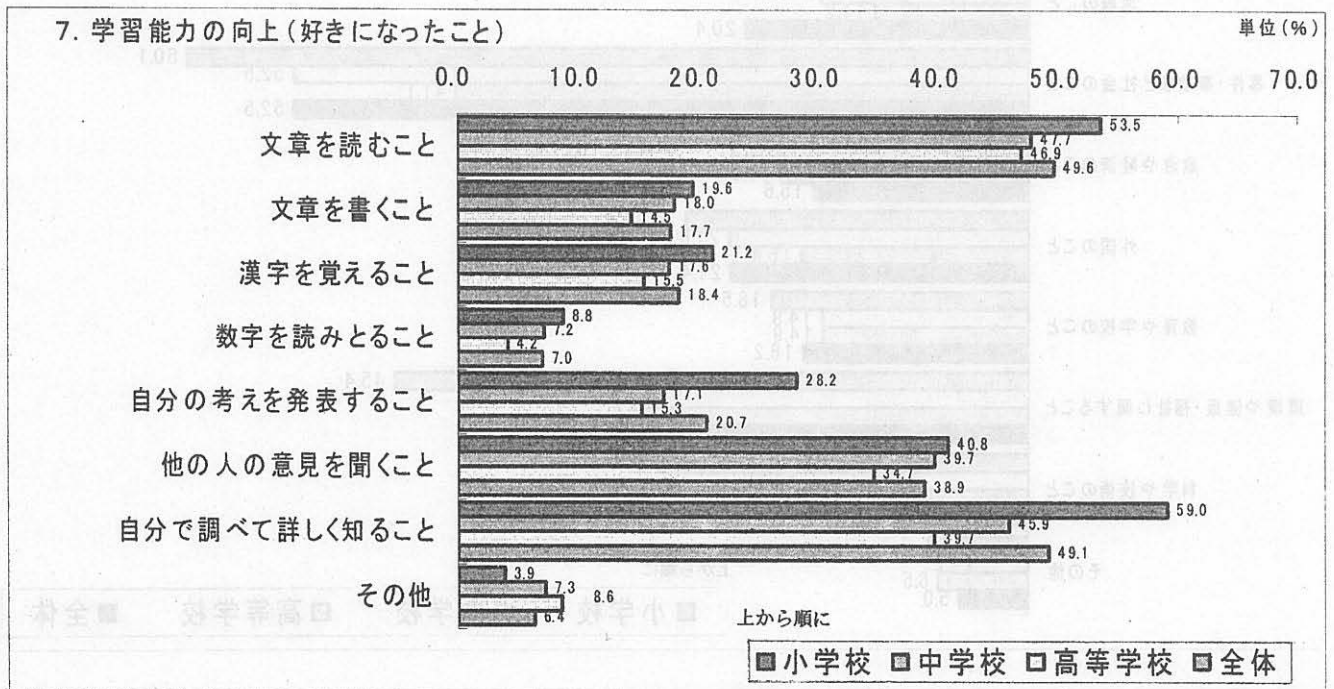
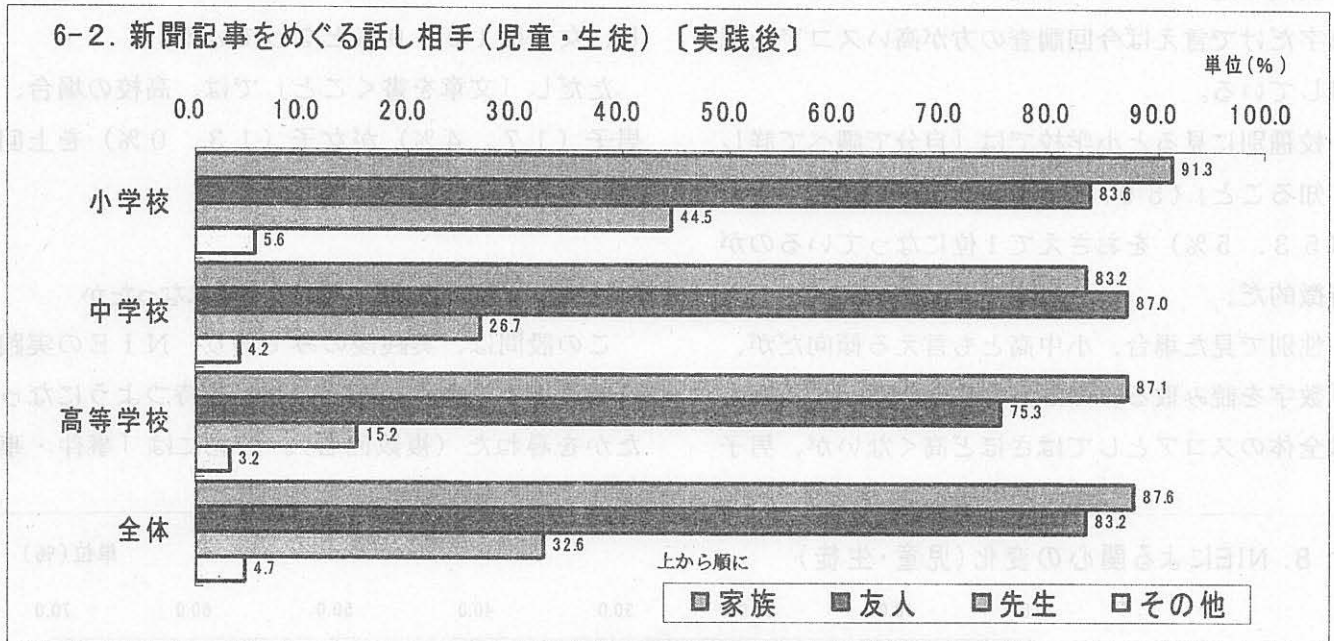
上がって55.4%になったのをはじめ、どの学校種においてもポイントを上げていますが、小学校の8.2ポイントの伸びが目立っている。

6. 新聞記事をめぐる話し相手

前の問いで「よく話し合う」「ときどき話し合う」と答えた児童・生徒に、話し合う相手を探ねた(複数回答)。

実践前では、「家族」(72.5%)が最も多いが、中学に限って言うと、僅差ながら「友人」(66.2%)がトップだった。

実践後では、話す相手の順位に変化はないものの、全体として話し相手も増えており、「家族」と「友人」が拮抗し、「先生」と話し合う児童・子どもが急速に伸びている。NIE授業の効果といえるだろう。



7. 実践後、好きになったこと

この設問は実践後のみであり、NIEの授業を経験して何が好きになったかを答えてもらった。上位には「文章を読むこと」(49.6%)、「自分で調べて詳しく知ること」(49.1%)、「他の人の意見を聞くこと」(38.9%)が入っている。これは97年の調査でも同様の傾向が出ている。

設問の違いもあり、単純に比較はできないが、数字だけで言えば今回調査の方が高いスコアを記録している。

校種別に見ると小学校では「自分で調べて詳しく知ること」(59.0%)が「文章を読むこと」(53.5%)をおさえて1位になっているのが特徴的だ。

性別で見た場合、小中高とも言える傾向だが、「数字を読み取る」のが好きになったとする回答は全体のスコアとしてはさほど高くないが、男子

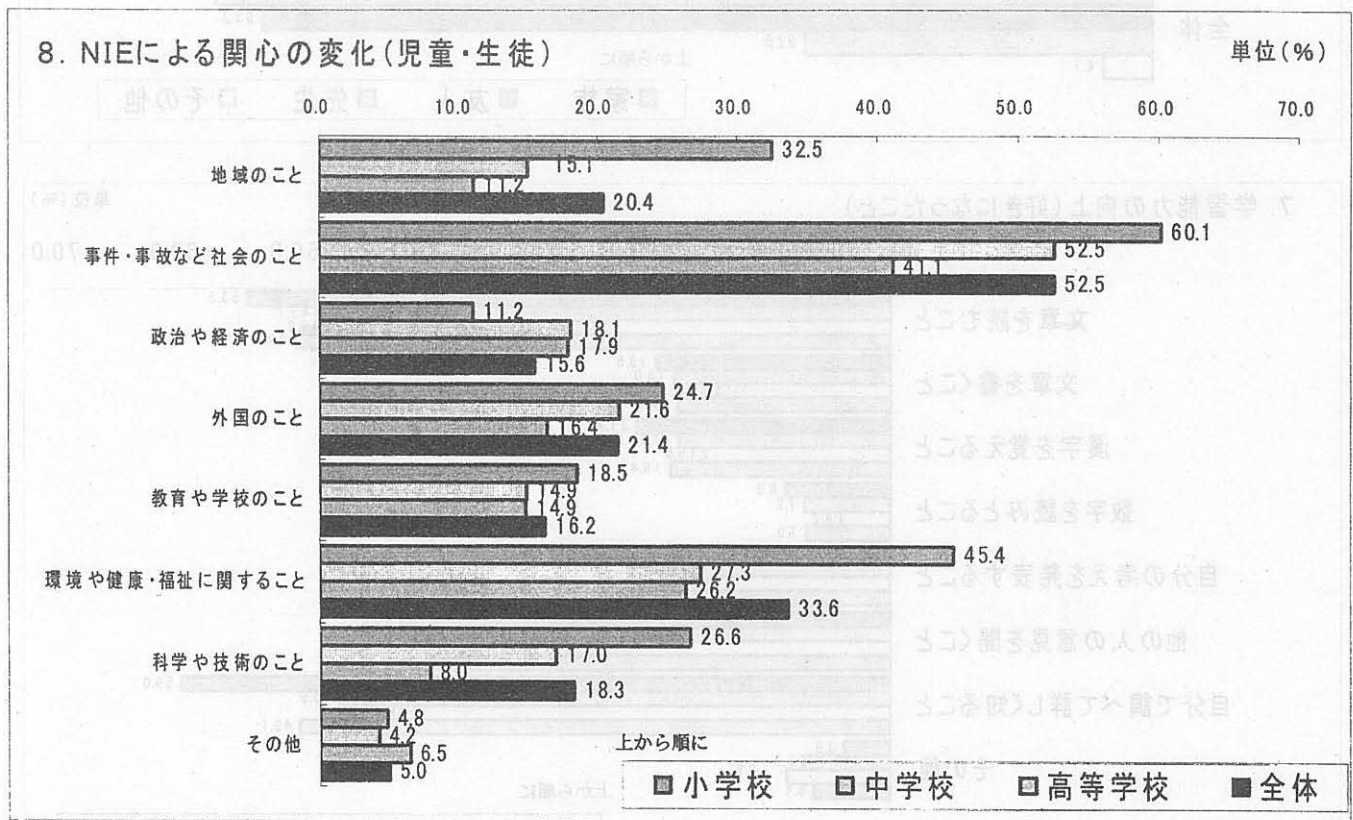
が高い。全体で男子が10.1%、女子は4.4%であり、以下小学校、同11.8%、同5.7%、中学校、同10.1%、同4.2%、高校、同6.5%、同2.9%となっている。また「漢字を覚える」も男子が、女子を上回っている。

逆に女子の方が高く出ている項目としては、「他の人の意見を聞くこと」「文章を書くこと」があげられる。前者は、男子が35.2%に対し、女子が42.2%、後者でも男子が16.3%に対し、女子は19.0%となっている。

ただし「文章を書くこと」では、高校の場合、男子(17.4%)が女子(13.0%)を上回っている。

8. どのようなことに関心を持つようになったか

この設問は、実践後のみであり、NIEの実践を受けてどのようなことに関心を持つようになったかを尋ねた(複数回答)。上位には「事件・事



故など社会のこと」(52.5%)、「環境や健康・福祉に関すること」(33.6%)、「外国のこと」(21.4%)、「地域のこと」(20.4%)とあがっている。社会への関心が確実に広がったことがうかがえる。

学校種別でみると、小学校の場合、3位には「地域のこと」(32.5%)、続いて「科学や技術のこと」(26.6%)が入っている。外国のことよりも身近な地域に関心が向いているのは、成長の過程から言えば、当然かもしれない。中学校では、全体では7位の「政治や経済のこと」(1

8.1%)が、4位になっており、関心領域が広がっていることを示している。

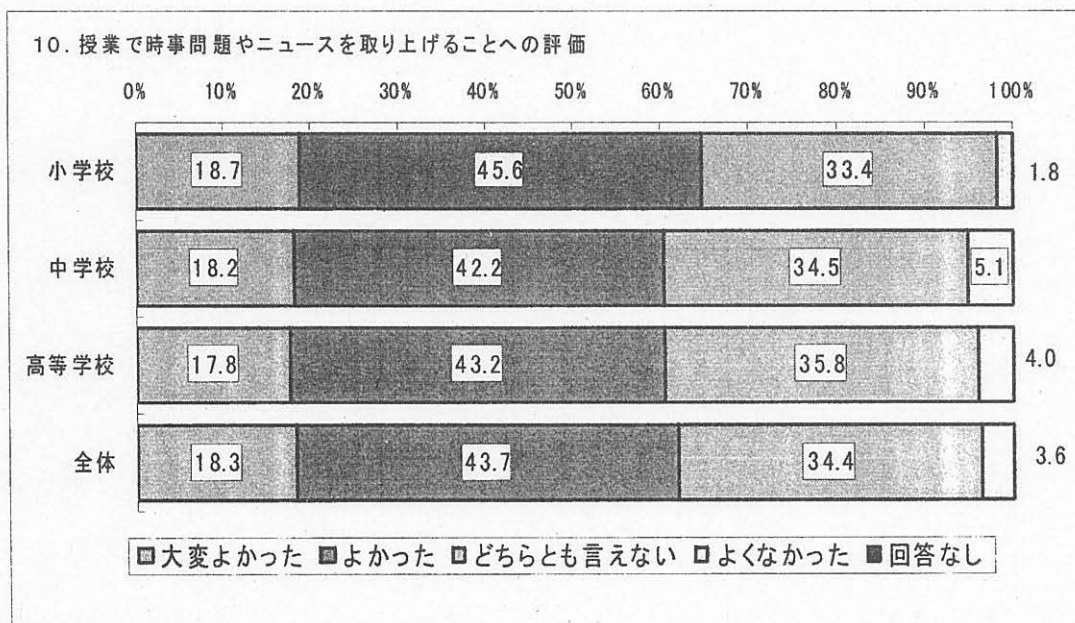
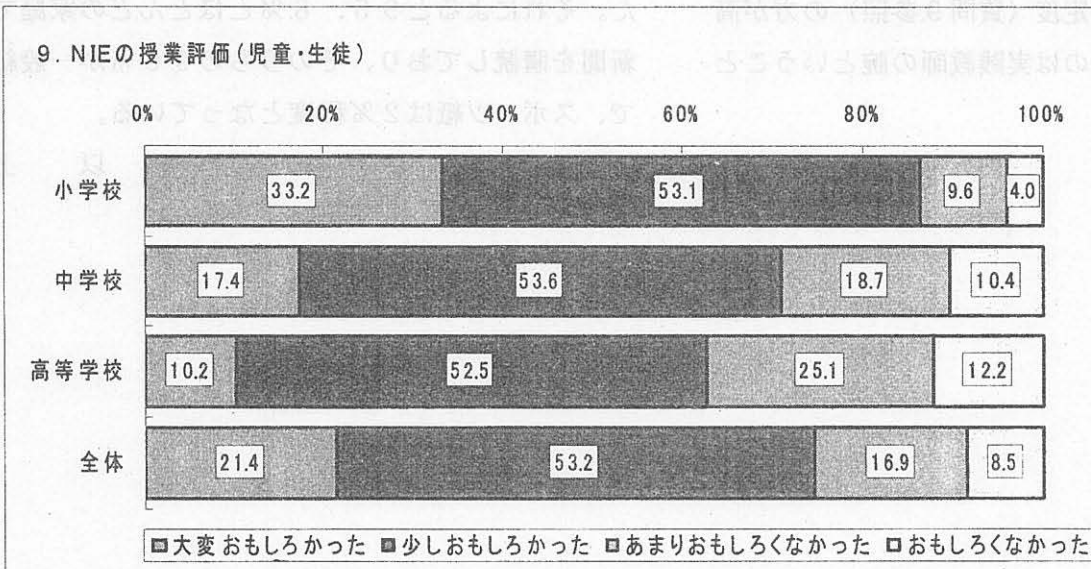
高校になると「政治や経済のこと」(17.9%)が3位にあがってくる。

男女別で見ると、男子は「政治や経済のこと」「科学や技術のこと」、女子は「教育や学校のこと」「環境や健康・福祉に関すること」に興味が向いている。

9. 新聞を使った授業はおもしろかったか

全体としては2割が「大変おもしろかった」、

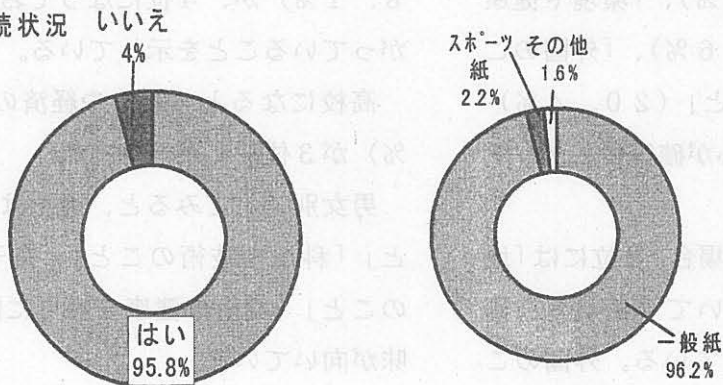
半数強が「少しおもしろかった」と答えており、4分の3程度が肯定的な受け止め方であった。学校種別にみると小学校、中学校、高校の順に肯定的だったが、高校では、男子生徒の方が女子生徒に比べ若干肯定度が高かった。



10. 授業で時事問題やニュースを取り上げることをどう思うか。

「大変良かった」「少し良かった」の肯定的回答が全体の62.0%で、「どちらとも言え

11. 家庭での新聞購読状況



ない」が34.4%だった。学校種別でも全体と同じような傾向になった。

「NIE授業への肯定度(質問9参照)の方が高い比率を示しているのは実践教師の腕ということか。

1.1. 家庭での新聞購読状況

実践後調査では家庭での新聞購読に関し尋ねた。それによると95.8%とほとんどの家庭で新聞を購読しており、そのうちの96%が一般紙で、スポーツ紙は2%程度となっている。

学校種別	はい	いいえ
小学	95.8%	4%
中学	96.2%	2.2%
高校	96.2%	1.6%
計	95.8%	4%

新聞の種類	割合
一般紙	96.2%
スポーツ紙	2.2%
その他	1.6%

《教師編》

今回は実践後調査の段階で、実践教師にも調査をお願いした。この結果を順を追ってみたい。

1. 新聞提供以前の実践の有無とNIE授業の経験

新聞財団が学校に新聞を提供する以前から、4分の3近くの教師が新聞を活用していたことが分かった。



1-2. NIE経験年数

0年	4	1.2%
1年	240	69.4%
2年	22	6.4%
3年	19	5.5%
4年	6	1.7%
5年	10	2.9%
6年	5	1.4%
7年	2	0.6%
8年	6	1.7%
9年	3	0.9%
10年	9	2.6%
11年	1	0.3%
12年	1	0.3%
13年	1	0.3%
14年	1	0.3%
15年	4	1.2%
17年	2	0.6%
無回答	10	2.9%

(人)

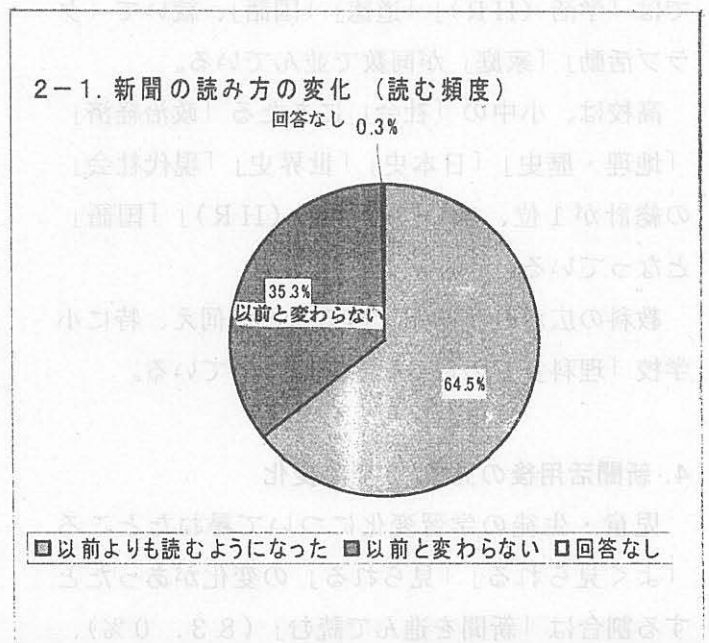
一方教師のNIE授業の経験年数では、70%程度の教師が実践1年目としており、経験はさほど深くないことがうかがえるが、NIE授業の経験が10年以上の教師も5%ほどいた。

2. 新聞の読み方の変化

新聞が提供されるようになってから、新聞の読み方にどのような変化があったかを尋ねた。提供以前と以後とでの「読み」具合は、3人に2人の教師が「以前よりも読むようになった」と答えている。

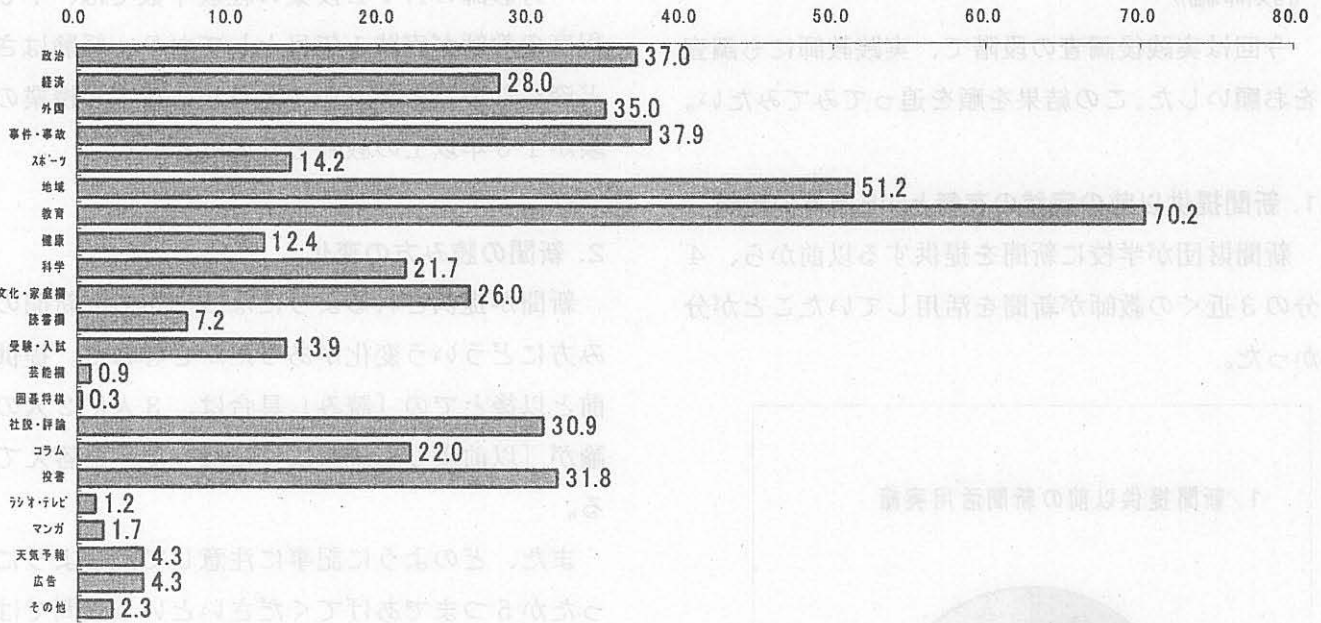
また、どのように記事に注意して読むようになったか5つまであげてくださいという設問では、5割を超えたのが、「教育や学校ニュース」(70.2%)、「地域ニュース」(51.2%)の2つで、3割以上だったのが「事件・事故などの社会ニュース」(37.9%)「政治のニュース」(37.0%)、「外国のニュース」(35.0%)、「投書」(31.8%)、「社説・評論」(30.9%)の5項目であった。

より身近なニュースと意見、評論に注目していることがうかがえる。



2-2. 新聞の読み方の変化(注意して読む記事)

単位(%)



3. 新聞活用動向

新聞が提供され始めてから、授業や教科外活動で新聞を活用する回数が増えたかを尋ねたところ、8割を超える教師が回数が増えた、と答えた。

何の教科、課外活動でNIEを実践しているかを尋ねたところ、小・中・高校ともに「社会」がトップ。小学校では次いで「学活(HR)」以下「国語」「理科」「道徳」と続いている。中学校では「学活(HR)」「道徳」「国語」、続いて「クラブ活動」「家庭」が同数で並んでいる。

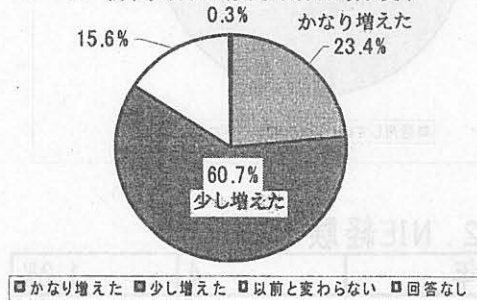
高校は、小中の「社会」にあたる「政治経済」「地理・歴史」「日本史」「世界史」「現代社会」の総計が1位、次いで「学活(HR)」「国語」となっている。

教科の広がりが進んでいることが伺え、特に小学校「理科」での取り組みが際だっている。

4. 新聞活用後の児童・生徒の変化

児童・生徒の学習変化について尋ねたところ「よく見られる」「見られる」の変化があったとする割合は「新聞を進んで読む」(83.0%)、

3-1. 新聞活用動向(活用頻度)

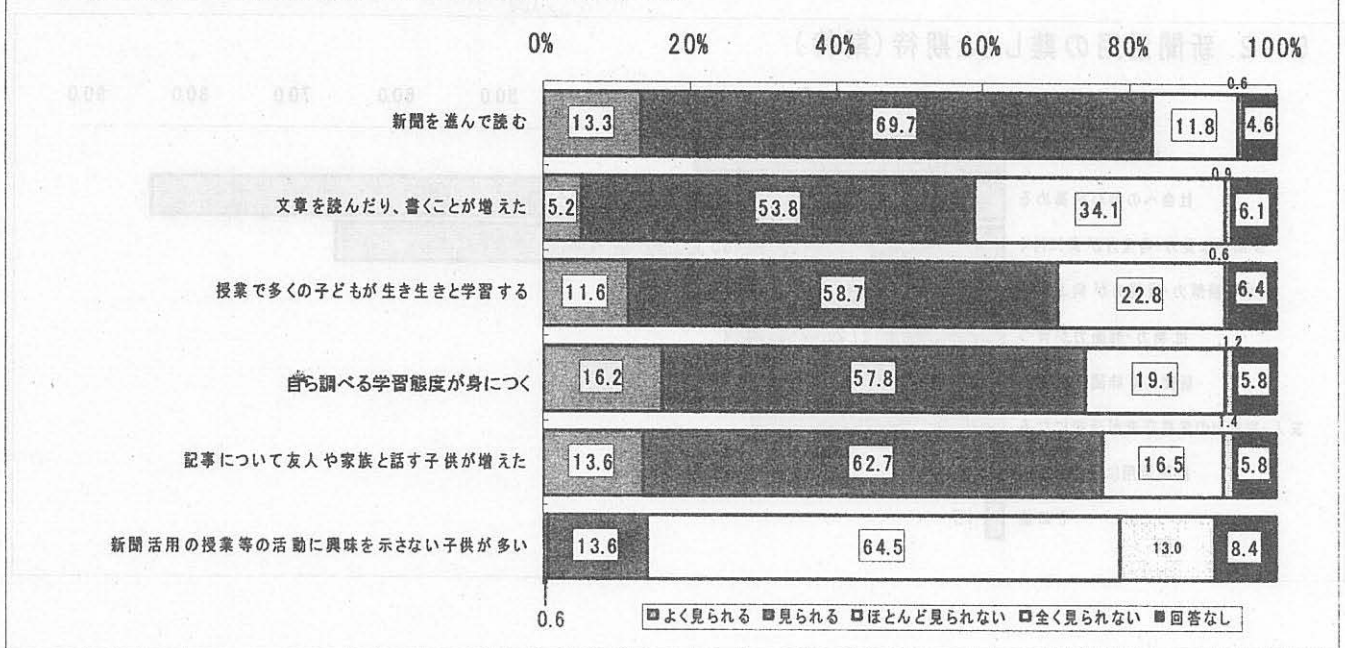


3-2. 新聞活用動向(教科、領域)

単位(人)

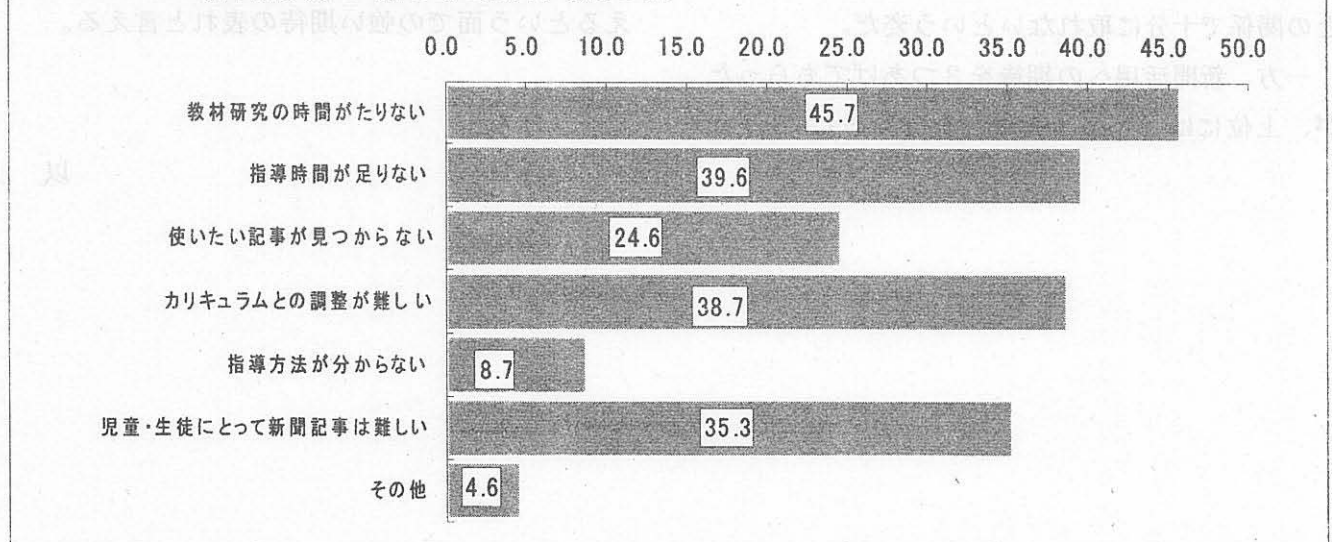
小学校		中学校		高等学校	
教科	人数	教科	人数	教科	人数
国語	60	国語	30	国語	11
社会	90	社会	67	社会	30
理科	33	理科	11	生物	2
家庭科	7	家庭科	14	家庭科	2
図工	5	図工	5	情報処理	1
保健体育	4	保健体育	7	経営情報	1
生活科	8	算数	8	流通経済	1
算数	8	道徳	36	簿記	1
道徳	31	総合	5	商業	1
総合	5	学活	49	学活	18
学活	72	クラブ	14	クラブ	3
クラブ	8	環境教育	1	工業科	2
情報教育	1	音楽	1	音楽	1
環境教育	1	美術	3	倫理	1
		進路指導	6		
		英語	6		

4. 新聞活用後をして児童生徒にどのような変化が見られたか



5-1. 新聞活用の難しさと期待 (難しさ)

単位 (%)



「記事について友人や家族と話すことが増えた」(76.3%)と新聞を読むことにかかわる部分が最も高かった。

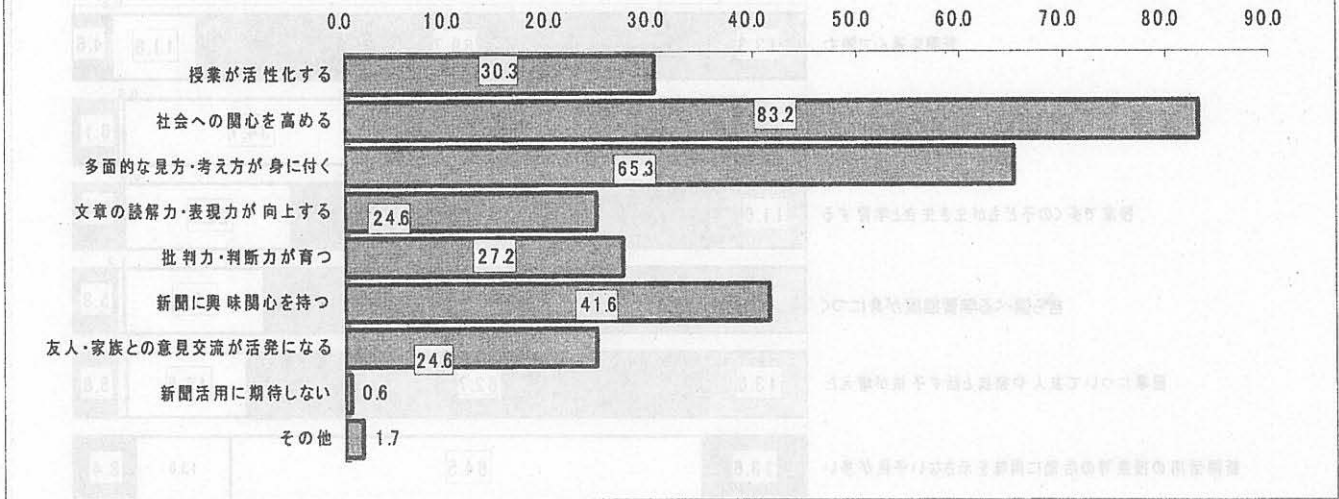
次いで「自ら調べる学習態度が身につく」(74.0%)、「授業で生き生きと学習する」(70.3%)、「文章を読んだり、書くことが増えた」(59.0%)が続いているが、児童・生徒の「好きになったこと」とある意味で対応しており、客観的効果が認められる。自ら主体的に学ぶ力を身につけよる。いわゆる「生きる力」の増進に役立つ

ことが児童・生徒、先生の双方から確認できた。

5. 新聞活用の難しさと期待

実践教師にとって新聞活用のネックになっている点を2つあげてもらった。最も高かったのは「教材研究の時間が足りない」(45.7%)で、次いで「指導時間が足りない」(39.6%)、「カリキュラムとの調整が難しい」(38.7%)、「児童・生徒にとって新聞記事は難しい」(35.3%)があがっている。

5-2. 新聞活用の難しさと期待(期待)



上位3項目を総合してみえるのは教材研究もままならず、新聞活用の授業も既存のカリキュラムとの関係で十分に取れないという姿だ。

一方、新聞活用への期待を3つあげてもらったが、上位には「社会への関心を高める」(83.

2%)、「多面的な見方・考え方が身につく」(65.3%)があり、児童・生徒に幅広い視野を与えるという面での強い期待の表れと言える。

以上